

読者ひろば

新聞少年の頃 雪の日の記憶

上田英樹⁴⁸

社会福祉士
(熊本市)

先日、10年に一度の寒波の朝を迎え、ふと小学生時代に経験した新聞配達の記憶がよみがえりました。

今ではあまり見かけることも少なくなりましたが、当時は新聞配達を

している小中学生、いわゆる「新聞少年」がいました。私は小学4年から中学2年の夏まで約4年半、休刊日以外は毎日配達を担当していました。

中でもつらかったのは寒さが厳しい日で、雪が積もる日の配達でした。そんな時には父や兄の力を借りて、何とか家族で仕事を続けることができました。この経験は私にとって初めて仕事の責任と報酬をいただく意味を知ることができた体験でした。

また、朝の早起き習慣が身について、起きることに苦になることはなくなりました。この習慣が身についたことも大きな財産だった、と今となっては思います。

新聞配達を担当されているみなさまへ。私はやさやかな配達の経験しかありませんが、この寒さ

にも負けず、体をいたわりながら新聞を楽しむにされている方々のもとへ向かわれてください。陰ながら応援しています。